# 講座　「縄文海進と黒浜貝塚」

第１回

T（講師）：今日の主題は国指定史跡黒浜貝塚についてです。ところで皆さんは「貝塚」という言葉は皆さんご存知でしょうか。

Ｓ（受講生）：私は「貝塚」に住んでいます。

T：そうでしたか。いまおっしゃられた「貝塚」は蓮田市内にある大字ですね。大字貝塚。この字名は県指定史跡綾瀬貝塚からとられたものです。

Ｓ：大阪府に貝塚市がありますが、これも同じですか？

T:大阪府貝塚市の「貝塚」は､元は「海塚」と表記したようで､考古学上の「貝塚」に由来する地名ではなさそうです。貝塚市には遺跡としての「貝塚」は未だ発見されていないと聞いたことがあります。

さて、その遺跡としての「貝塚」そのものについて皆さんはどんな印象をお持ちでしょうか。

Ｓ：「ゴミ捨て場」とか「縄文のタイムカプセル」とか習った記憶があります。

T：私もそう習いました。私が生まれ育ったところ（現さいたま市南区）には貝塚が多くありました。貝や土器が露出していて、そんなところでよく遊んでいました。

その後学校の授業で「貝塚」とは「古代の人々のゴミ捨て場」であり、しかしその「ゴミ捨て場」には貴重な情報がたくさん詰まっていて､その情報から縄文人の生活を蘇らせることができる､「貝塚」は「縄文時代のタイムカプセル」なのだと学びました。しかし奇しくも発掘調査に携わる職に就き、調査の経験を重ねていくうちに貝塚というものについて疑問も湧いてきました。そのきっかけが史跡黒浜貝塚の学術調査でもあったわけです。

　この講座ではその「貝塚」について、特に今現在整備事業が行われている埼玉県蓮田市の「黒浜貝塚」の調査成果を元にそのタイムカプセルを開けていきたいと考えています。

Ｔ：縄文時代の貝塚は全国におよそ 2700 か所で確認されています。そのうち 60％以上が蓮田を含めた関東地方に集中しています。埼玉県内では貝塚は 100 を超えます。

図１をご覧ください。これは縄文海進最盛期の海域と縄文時代貝塚の分布を示しています。蓮田市では綾瀬川流域と元荒川流域そして今は悪水路になっている日川流域に貝塚が存在し、さらに多くの貝塚が縄文前期の所産であるということが一目でわかります。蓮田に限って言えば、貝塚は縄文時代早期後半（茅山上層式期）の貝塚が最も古く、続いて前期初頭（花積下層式期）から前期後葉（諸磯ａ式期）、中期後葉（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）、縄文時代後期～晩期、⑤平安時代、近世 の遺跡で検出されています。このうち、縄文時代早期後半から前期後葉の、いわゆる縄文海進期の貝塚では時期により差はありますが、海水に棲息する貝、海水と真水が混じる汽水域に棲息する貝が主体となります。縄文時代中期の貝塚からは汽水域に棲息する貝が中心で、縄文時代後期～晩期、平安期及び近世は淡水棲息の貝がほとんどです。今回は縄文時代早期後半から前期後葉の貝塚が中心の話となります。

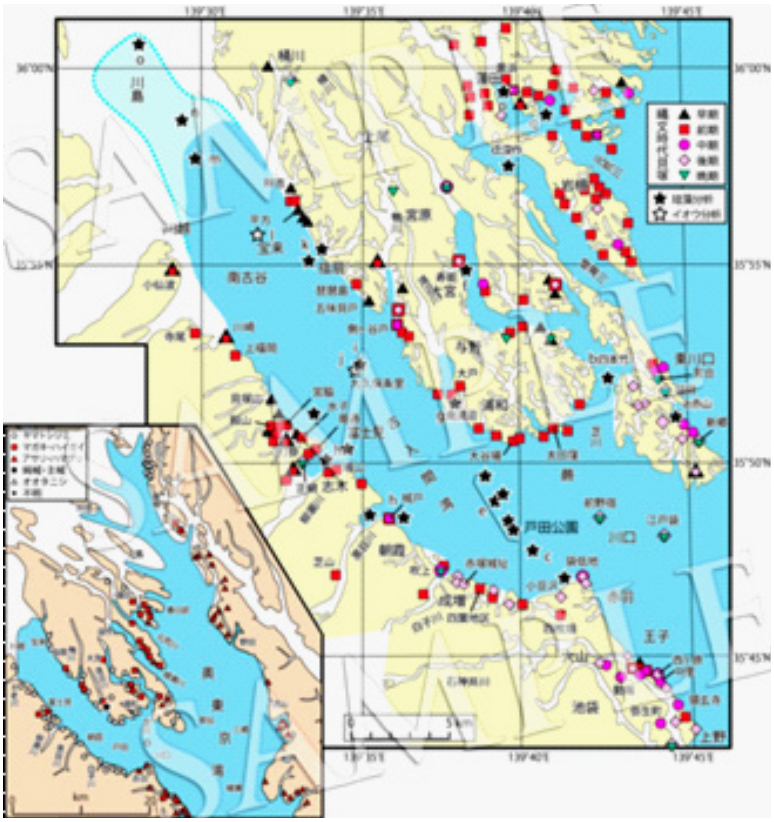

図１　縄文海進最盛期の海域と縄文時代貝塚の分布 ( ※１)

Ｓ：「縄文海進」という用語がでましたが、蓮田に海が入り込んでくるプロセスはどのようなものなのでしょう？

Ｔ：図３をご覧ください。海水準が最も低かったのは最終氷期最寒冷期で 26000 ～ 19000 年前です。この後から氷床の融解が始まり、海水準が上昇したと考えられています。ところが 12800 ～ 11700 年前に急激な「寒の戻り」が起こり、海水準の上昇は停滞します。少々下がったことも想像されます。の時期をヤンガードリアス期と呼びます。このヤンガードリアス期直後に再び急激に海水準は上昇します。この上昇のピークが蓮田に海が侵入してくる 6000 年前の時期は縄文時代の前半期に相当するため、この海水準上昇現象、海が侵入してくる自然現象を縄文海進と呼びます。関東域においてはこの海進によって低地の沖積層の一部である有楽町層を形成したことから有楽町海進とも呼ばれます (図２)。最終氷期には海水準が低下しており、東京湾は海水準－ 80 m～ 95 mもの深い谷を形成していました。そしてこの深い谷にも海水が入り込みます。海進は 12000 年～ 11000 年頃には、海岸線はほぼ現在の沿岸に到達し、カキ礁を形成します。このころの海水準 は－ 50 m程です。さらに海の進入は続き、湾の奥へとカキ礁も移動していきます。カキ礁は海水と淡水が混交する河口部の潮間帯につくられます。それゆえカキ礁の存在はその地域のその頃の海岸線を示していると言え、縄文海進を考えるうえでとても大事な鍵なのです。

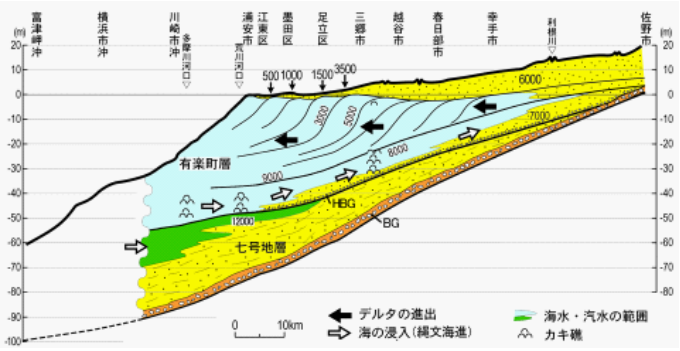


図２　東京湾から中川低地における海進海退と有楽町層の形成（※１）

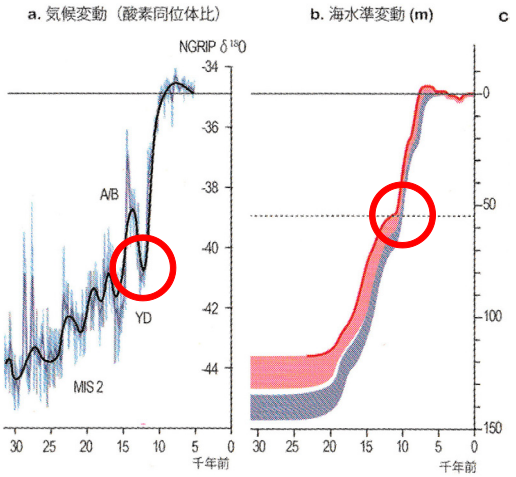


図３　海水準変動・気候変動と沖積層の形成（※１）

図４は海進とカキ礁形成の推移をあらわしたものです。海進は 12000 年～ 11000 年前頃に、沿岸に到達し、

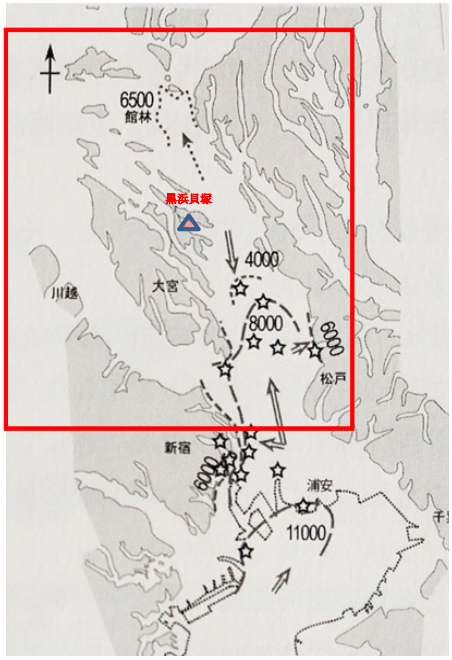


図４　縄文海進の推移に伴うカキ礁 (☆) の移動と海岸線（※１を加工）

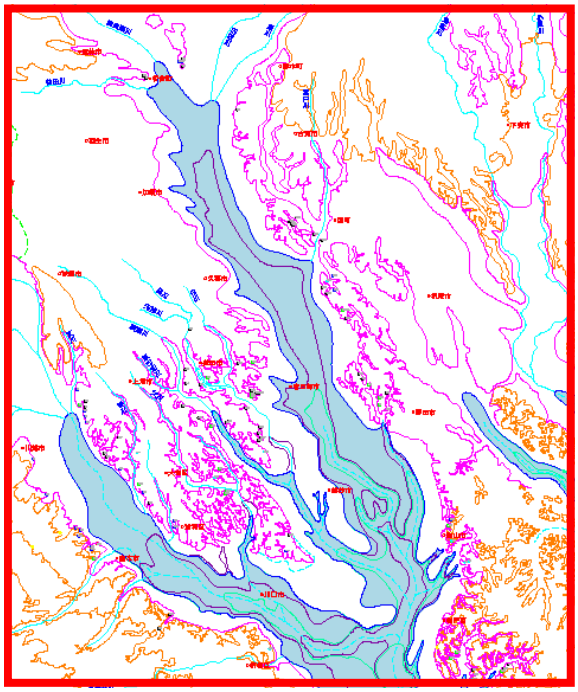

図５　縄文時代（早期～前期初頭）の奥東京湾の様子（※２を加工）

－ 50 mにカ礁が形成されます。8900 年前には三郷市戸ヶ崎に－ 25 mに、8000 年前には同市大広戸で－ 21 mまで上がってきます。海水準の上昇速度は年 6㎜と計算されています。さらに海水準は上昇を続け、7000 ～ 6500 年前頃には奥東京湾の最奥部付近まで達します（図５）。群馬県板倉町の寺西貝塚では早期後半の炉穴上にヤマトシジミを主体とする貝塚が作られています（純粋なマガキの貝層があるとの記載も。）。町の広報によれば、8000 ～ 7000 年前のものと考えられているようです。この他この周辺では離山貝塚、一峯貝塚が同時期です。

さて先ほど蓮田の貝塚について早期後半（茅山上層式期）の貝塚が最も古いといいました。市内の早期の貝塚が発見されたのは､市内の黒浜地区 13 か所に点在する貝塚群を｢黒浜貝塚群」と呼んでいますが、この黒浜貝塚群の天神前遺跡から見つかった早期後半の９号炉穴 からハイガイを主体とした小規模な貝層が検出されました。板倉町の寺西貝塚と同時期ですが、貝種が異なることが特徴的です。出土した炭化物から測定した較正年代の結果は、7418calBP(95.4%)7268calBP でした。つまり７千数百年前には元荒川流域に海進が及んでいた可能性があるということです。ただこの時期の海進は安定しなかったのか、天神前遺跡９号炉穴以外で貝層は確認されていません。以後周辺で貝塚が見られるのは、最盛期＝高位安定期である関山式の時期です。

S：早期後半、およそ７千数百年前以降に蓮田に海が入ってくることはよくわかりました。関東最古の貝塚はどこなのでしょう。

T：関東地方に目を向ければ、貝塚の形成がはじまる時期は早期初頭です。夏島式土器の標式遺跡であり、ハイガイ、マガキが多い神奈川県横須賀市夏島貝塚、ヤマトシジミを主体とし、動物儀礼も確認された千葉県船橋市取掛西貝塚、ヤマトシジミを主体とする千葉県香取郡神崎町の西之城貝塚が縄文時代最古の貝塚のグループとして挙げられます（図６）。

図６　最古の貝塚（※３を加工）

10000 年前には東京湾沿岸域には海進が到達しているので、海進のタイミングと人々の採貝活動の開始はほぼ一致すると考えてよいのではないでしょうか。

どうやら蓮田には７千数百年前に海進が到達しはじめたものの、未だ安定環境にはなかったという話を前回しました。今回は海進最盛期、最も広くそして奥深く海が侵入した期間の話です。

さて皆さん、ここで貝塚ができる要件について考えてみてください。これを宿題として今日の講座を終わりにします。

引用参考文献

※１　「改訂版　日本の沖積層ー未来と過去を結ぶ最新の地層ー」遠藤邦彦　2017　冨山房
※２　「蓮田市文化財情報サイト　縄文海進地形図」蓮田市教育委員会社会教育課
※３　「「嵐山町 web 博物誌　奥東京湾と貝塚の分布」嵐山町文化スポーツ課